



尾道市立市民病院広報誌

## 第62号

発行日：2026年1月

〒722-8503  
尾道市新高山3丁目1170-177  
tel:0848-47-1155  
fax:0848-47-1004  
<https://onomichi-hospital.jp/>

## 尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



## 新年のご挨拶

院長 ひろおか たかひこ 廣岡 孝彦

新年あけましておめでとうございます。日頃より当院の運営に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2026年を迎えるにあたり、現在の医療を取り巻く環境と、自治体病院としての責務について、改めて皆さまと共有したいと思います。

近年、わが国の医療は大きな転換期にあります。少子高齢化が進む一方で、医療需要は増え続けており、その質と安全を確保することはこれまで以上に重要となっています。しかしながら、診療報酬の改定は抑制的に推移し、医療機関の収入は頭打ちの傾向にあります。一方で、人件費の上昇、物価高騰、医療機器の更新、電気・ガスなどの光熱費の増大など、医療を支えるコストは年々増え続けております。この収支の乖離は大学病院や自治体病院において特に深刻で、全国的に多くの公立病院が赤字決算を余儀なくされています。当院においても例外ではなく、経営環境は決して容易ではありません。

しかしながら、自治体病院には単に収益を追求するだけでは果たし得ない重要な使命があります。それは、地域に暮らすすべての人々の生命と健康を守る砦として、必要な医療を絶やさず提供し続けることです。救急医療、感染対策、

災害時の医療体制など、民間病院だけでは担いきれない領域を守り抜くことが、私たちに課せられた責務です。

経営の厳しさが増す中であっても、医療の質と安全は決して後退させてはなりません。当院では、医師・看護師・コメディカル・事務職員が一丸となって、限られた資源の中でも最善の医療を提供する体制づくりに取り組んでまいりました。業務の効率化やチーム医療の推進、ICT導入による業務改革など、持続可能な病院経営と医療サービスの向上の両立を目指して努力を重ねております。これらはすべて、地域の皆さまから「市民病院があってよかった」と言っていただける存在であり続けるための歩みです。

2026年も、「信頼される地域医療の中心」として、安全で質の高い医療の提供、そして患者さまに寄り添う温かな医療を実践してまいります。厳しい時代だからこそ、医療者一人ひとりが原点を忘れず、地域とともに歩む病院としての役割を果たしてまいります。本年も変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆さんにとって、本年が健やかで実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

## 認知症看護認定看護師として



認知症看護認定看護師

田邊 直人

私は認知症看護認定看護師として、地域で暮らす皆さまが、いつまでも自分らしく安心して生活できるよう支援を行っています。

認知症は決して特別な病気ではなく、加齢とともに誰にでも起こりうる、ごく身近なものです。本人や家族が抱える不安や戸惑いに寄り添い、必要な情報や支援へ“つなぐ”役割を担っています。認知症は、記憶の問題だけではありません。判断力の低下、気分の変動、生活リズムの乱れ、行動の変化など、日常生活の中でさまざまな形で現れます。こうした変化は本人にとっても家族にとっても大きなストレスとなり、どう対応すればよいのかわからなくなることも少なくありません。また病気や怪我などにより入院をすることも、本人にとっては大きなストレスとなり混乱を来たすこともあります。

病院で療養される認知症の方が、安心できる環境づくりには病院スタッフとの協力が欠かせません。当院では看護部や各病棟で勉強会や研修を行ない、スタッフの認知症看護の質の向上に努めています。

患者さんの動線を工夫する、見えやすい表示に変える、生活リズムを整えやすい支援を取り入れるなど、環境を調整することで症状が落ち着く場合も多くあります。必要に応じて、地域包括支

援センターやケアマネジャーなどに情報提供し、多職種と連携しながら包括的な支援につなげていきます。

私は、まずはその“困りごと”を丁寧に伺うことから始めます。

どのような状況で不安が強くなるのか、どんなときに困りごとが起きやすいのか、本人のこれまでの生活や性格、好きだったこと、習慣などを大切にしながら、一人ひとりに合わせたケアの方法を一緒に考えます。また、家族に対しては、「介護を完璧にしなくてよい」というメッセージをお届けすることもあります。介護は一人で背負うものではなく、地域全体で支えるものです。介護負担を軽減するためのコツ、気持ちの整理、地域資源（介護保険サービス・医療機関・支援団体）とのつながりづくりも認知症看護認定看護師の大切な役割です。

認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしく、安心して生活を続けることは可能です。そのためには、地域の皆さまの理解や温かい見守りが大きな力になります。病院外での場でも依頼があれば講話、相談会などを通じて、認知症への理解を深める活動も行っています。

「認知症になっても大丈夫。」

そう思える地域づくりを、皆さんとともに進めていきたいと考えています。

どんな小さな心配事でも構いません。

気になることがありましたら、どうぞ遠慮なく声をかけてください。

皆さん一人ひとりの思いに寄り添い、安心につながる支援を続けてまいります。



## 接遇委員会の取り組み

私たち尾道市立市民病院の職員は、「信頼される安全で質の高い医療を提供し、市民の皆様の健康を守ります」の理念のもと、中核医療機関として良質な医療の提供に日々努めています。接遇委員会では年間を通して、接遇ロールプレイング大会（7月と2月）、外部講師による接遇研修（12月）、Webを活用したオンライン研修（1月）などの研修を多職種で企画・開催しています。ロールプレイング大会では日々の業務で実際にあった出来事やシーンを想定し、患者さんや医療スタッフの役割を演じることで実践的なコミュニケーション能力や共感力を養い、課題を発見し改善に向けて皆で話し合っています。研修後の感想では「相手の気持ちに寄り添うように、心がけていきたい」「悪い例と良い例を実際見比べて、自身と照らし合わせる事ができた」「多職種の意見が聞けてよかったです」など肯定的な感想がありました。外部講師

による接遇研修では「ご意見箱」に投函（患者さん・ご家族から寄せられたご意見）された内容について講義して頂き、どのように対応することがよかったのか考える研修となり、普段の業務に活かせる内容となっています。Webを活用したオンライン研修では接遇の基本的な知識や新しい知識を学ぶ場となっています。今後も定期的に様々な研修を行い、患者さん・ご家族が安心して治療が受けれるよう、接遇力の向上を目指します。



接遇委員長 藤井副院長



ロールプレイング中



グループに分れてディスカッション



## 循環器内科の紹介

循環器内科は現在常勤医師1名のためパーテル治療や救急対応が難しく、ご不便をおかけしております。心不全の重症化は予後や生活の質（QOL）を低下させると言われています。当院では多職種チームで心不全患者さんの増悪予防とQOL維持のため、教育・生活支援に取り組んでいます。外来では患者さん自身が健康に関心を持てるようサポートしています。冬は心臓病が悪化しやすい季節です。何かありましたら循環器内科外来へご連絡ください。



多職種カンファレンスの風景

循環器内科 外来看護師 慢性心不全看護認定看護師 正木

## 心不全の運動療法～体を動かすことが、治療につながる～

「心不全」と聞くと、できるだけ安静にすべきと思われる方も多いかもしれません。しかし、近年の研究により、適切な運動療法が心不全の予後改善に有効であることが明らかになっています。

実際に、運動を行った患者さんでは、息切れや疲れやすさの改善、入退院の回数の減少、生活の質（QOL）の向上、さらには寿命の延長につながる可能性があるとする報告もあります。心臓リハビリテーションとして、運動療法はガイドラインにも明記され、医療現場で積極的に取り入れられています。

では、どんな運動をすればよいのでしょうか？

基本となるのは**有酸素運動**です。たとえば、1日10～20分程度のゆっくりしたウォーキングや、屋内でできる「その場足踏み」などが効果的です。息が少しほばむ程度の強さで、無理のない範囲から始めましょう。

また、筋力の維持も大切です。椅子に座った状態での膝の曲げ伸ばしや、ペットボトル（500mL）を使った腕の上げ下げなど、軽い筋力トレーニングも取り入れてみましょう。5～10回を目安に、1日1～2セットから行えます。

いずれも、調子が悪い日は無理をせず、医師やリハビリスタッフの指示を受けながら、体調に合わせて進めていくことが大切です。運動は「治療の一部」です。焦らず、自分のペースで続けることが、元気な生活への第一歩になります。

リハビリテーション科 理学療法士  
心臓リハビリテーション指導士 松谷



## 院内製剤について

市販されていない、または既存の製剤では対応できない薬を、病院内で調製することがあります。個々のニーズに合わせて軟膏や処置薬などを調製することは、患者さんのQOL向上やチーム医療の推進に役立っています。調製には、疾病や薬学的な知識に加え、技術も必要であり、薬剤師の重要な業務の一つとなっています。

褥瘡の治療に使われるポビドンヨード・シガ一軟膏は、現在は購入できますが、以前は院内で、グラニュー糖を粉碎機にかけ、パウダー状にすることから調製していました。また、大腸内視鏡検査の前に服用する洗腸液も、かつては院内製剤でしたが、今では利便性の高いパッケージに入り、風味も院内製剤より良くなつた製品を購入できるようになりました。このように、当初、院内で調製していたものでも、多くの施設で施用されるようになると、次第に製品化を望む声が高まり、これを受けて製薬会社が動き、製造・販売に至ったケースもあります。結果として、製薬会社は新商品を開発でき、現場では、その製品を購入することで省力につながり、マンパワーを他の業務へ充てることができます。こういった

流れの【きっかけ作り】という一面も、院内製剤にはあると言えます。

とはいって、希少性や特殊性、採算の面から、製品化されるものはごく一部で、当院では現在14種類の外用剤・処置薬を院内製剤しています。院内製剤の調製にあたっては、市販の医薬品と同等に品質を確保し、有効性・安全性・安定性についても配慮しています。また、科学的・倫理的に妥当かどうかを十分に考慮し、倫理委員会での審査を経た上で 患者さんには丁寧な説明を行い、同意を得てから施用されます。同意をいただく際には、ご理解とご協力をよろしくお願いします。



## 2025年度 第2回 地域連携バス勉強会を開催しました

「2025年度 第2回 地域連携バス勉強会」を10月16日(木)に開催いたしました。医療機関の医師や看護師、リハビリ、ソーシャルワーカー、事務の方、介護施設やケアマネジャーの方など約60名が参加をしてくださいました。

今回は「転倒防止 一昨今の福祉用具について」をテーマに、福祉用具事業所の方からの説明・指導の下、歩行に関する福祉用具を実際に見て使用しながら知識を深めました。参加された方からは「実際に福祉用具を使ってみて、便利さがよく分かった」「知らない用具を知ることができた」とご意見をいただきました。



坂道で電動車椅子を試乗

2020年度以降、オンラインでの開催となっていましたが、5年ぶりに顔の見える連携ができる良い機会となりました。

ご参加くださいました皆様、誠にありがとうございました。引き続き地域連携バスを通じて、地域の皆様とともに研鑽に努めてまいります。



様々な種類の歩行器

## 第10回 地域連携のつどいを開催しました

「第10回尾道市立市民病院地域連携のつどい」を10月23日（木）、尾道国際ホテルにて開催いたしました。地域の医療機関の皆さまをはじめ、当院と連携いただいている介護事業所の方々にもご参加いただき、院外から152名、当院職員を含め総勢197名での盛会となりました。

開会にあたり、突沖病院事業管理者ならびに尾道市医師会の佐々木会長よりご挨拶をいただきました。続いて、乳腺甲状腺外科 山本真理診療科長による「乳腺甲状腺外科開設3年のあゆみ」、泌尿器科 杉本盛人診療科長による「手術支援ロボット ダヴィンチについて」の講演が行われました。

講演後には、因島医師会 藤井会長のご挨拶に続き、乾杯の発声で懇親会がスタートしました。医師・歯科医師の先生方をはじめ、看護師、薬剤

師、理学療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、生活相談員、介護支援専門員など多職種の皆さんにご参加いただき、職種を超えた交流と連携を深める貴重な機会となりました。

日頃は電話や書面でのやり取りが中心ですが、直接顔を合わせることで、より心の通った関係へと発展できたのではないかと思います。各テーブル内はもちろん、席を越えて交流の輪が広がり、活発な情報交換が行われました。

歓談の時間はあっという間に過ぎ、最後に当院廣岡院長より閉会の挨拶があり、盛況のうちに終了いたしました。

ご参加いただきました皆さんに心より感謝申し上げます。今後とも地域の皆さまとの連携をさらに深め、安心して暮らせる医療・介護体制の構築に努めてまいります。



尾道市立市民病院地域連携のつどい



## 令和7年度第1回火災総合訓練を実施しました

10月8日(水)に火災訓練を実施しました。

夜間の出火を想定し、入院患者さんの安全確保と職員の冷静かつ迅速な初期対応力の習熟を目的とし、参加者は真剣に取り組みました。

夜間に火災が発生したという、人手の少ない時間帯で避難誘導が困難な状況を想定し、初期

対応から職員との連携、通報、避難誘導の訓練を行いました。

職員一人ひとりが火災発生時の役割を再確認し、防災意識を高めることができました。また、日頃から緊急時の連絡体制や動線を意識しておくことを再認識する機会となりました。



## 第35回文化祭を開催しました

11月10日（月）、11日（火）の2日間、第35回尾道市立市民病院厚友会文化祭を新館4階大会議室で開催しました。

当院職員とその家族が手がけた多種多様な作品が展示され、文化祭に彩りを添えました。

生け花、フラワーアレンジメントの華やかな色彩や、絵画、書の作品が来場者の目を楽しませました。

その他にも温かみのある陶芸や繊細な手芸や工芸などが並び、芸術作品に触れる貴重な機会となりました。

次回も素敵な作品に出会えることを楽しみにしています。



## 科別診療割表

■ 診療受付時間  
休診日 土曜日・日曜日・祝日  
午前8時30分から午前11時まで(救急は随時)  
午前11時から翌年1月3日  
午前8時30分から午前11時まで(救急は随時)

診療科	科別	月	火	水	木	金	備考
内科 総合診療科	1 診	水戸川 剛秀 (内科全般)	開原 正展 (腎・高血圧)	水戸川 剛秀 (内科全般)	水戸川 剛秀 (内科全般)	開原 正展 (腎・高血圧)	
	2 診	開原 正展 (腎・高血圧)		藤本 靖郎 (総合診療)	片岡 広明 (総合診療)	藤本 靖郎 (総合診療)	
	3 診	藤本 靖郎 (総合診療)				長澤 紗穂子 (糖尿病)	
	4 診				山脇 泰秀 (総合診療)	山脇 泰秀 (総合診療)	
	総診1			水田 耀※1 (リウマチ・膠原病)		長州 晶子※1 (リウマチ・膠原病)	※1 予約制
呼吸器内科	午後		検診	検診	検診	検診	
			長澤 紗穂子 (糖尿病)	稲葉 謙※2 (糖尿病)	山脇 泰秀 (総合診療)		※2 予約制
消化器内科	午前	片岡 幹男		片岡 幹男	片岡 幹男	松本 真一郎	
	午後			禁煙外来※3	検査	検査	※3 禁煙外来14:30から
循環器内科	午前	1 診 笠井 健史	大城 勝 森藤 由記	笠井 健史	大城 勝	森藤 由記	
	午後	検査	検査	検査	検査	検査	
循環器内科	午前	小林 博夫	小林 博夫	高村 俊行	高村 俊行	小林 博夫	心不全看護外来予約制
	午後	診察 検査			ベースメーカー外来※5		※5 第2木曜日 14:00から
		血管診療センター※6	検査	検査・診療		検査	※6 予約制
脳神経内科	午前		岡本 美由紀※7				※7 予約制
	午後						
外科 (肛門科)	午前	1 診 2 診 3 診	村田/濱田	村田 年弘 上塙 大一 岡野 由佳	下田/岡野 上塙 大一 (肛門科)	濱田 伸紀 川真田 修	村田 年弘 下田 篤史
	午後		手術 (ストーマ外来)※8	検査	手術	検査	手術
							※8 第2・4月曜日
血管外科	午前	1 診 2 診	手術	手術	手術	手術	
	午後		(手術)	手術	(手術)	手術	
乳腺甲状腺外科	午前		手術	手術	手術	手術	
	午後						
整形外科	午前	1 診 2 診 3 診	廣岡 孝彦 (予約)	藤井 淳一	廣岡 孝彦 (予約)	藤井 淳一	廣岡 孝彦 (予約)
	午後	4 診 5 診	清水 健志 石原 聖也	迫間 巧将 装具	迫間 巧将 岡田 幸正※9	石原 聖也	佐藤 浩平
						清水 健志	本村 賢信
						装具	※9 第2水曜日 13:00から
			手術	手術	手術	手術	
形成外科	午前		安田 ひな				
	午後		手術	山本 康弘※10 (乳房再建)			※10 予約制
小児科	午前		衣川 佳数	衣川 佳数	衣川 佳数	衣川 佳数	
	午後		乳兒健診※11		予防接種※11		※11 予約制 時間は電話で相談可
脳神経外科	午前	1 診 2 診	土本 正治 守山 英二※12	五月女 悠太 守山 英二※12	溝淵 雅之 守山 英二※12	土本 正治 齋持 直也	西条 智也 守山 英二※12
	午後		土本 (頭痛外来)	手術	検査	手術	検査
産婦人科	午前	新患再来	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	
	午後		検査	検査	検査	検査	
皮膚科	午前		樺野 かおり	樺野 かおり	樺野 かおり	樺野 かおり	
	午後		検査	手術	手術	検査	検査
泌尿器科	午前	1 診 2 診 3 診	安藤 展芳	安藤 展芳	杉本 盛人	杉本 盛人	平良 彩
	午後				平良 彩	大枝 忠史	
耳鼻いんこう科	午前			診療あり	診療あり		診療あり
	午後			(睡眠時無呼吸外来)			広島大学病院より
眼科	午前					諫見 久恵	午前のみ
	午後						
放射線科	午前	画像診断 治療	福間 省吾	福間 省吾	福間 省吾	福間 省吾	
	午後	画像診断	田邊 新 (予約)	画像診断	画像診断	画像診断	
歯科口腔外	午前		吉田 明弘	吉田 明弘	吉田 明弘	吉田 明弘	
	午後		口腔外科	口腔外科	口腔外科	手術	予約制
リハビリテーション科	午前				吉原 大貴		予約制
	午後				田中 芳幸		予約制

## 専門外来のご紹介(予約制)

月曜 : ストーマ外来(第2・4) / 頭痛外来 / 脳脊髄液漏出症外来  
 火曜 : 睡眠時無呼吸外来 / 次症性脳疾患専門外来 / 脳脊髄液漏出症外来  
 水曜 : 禁煙外来(毎週) / 脳脊髄液漏出症外来  
 木曜 : ベースメーカー外来(第2週)  
 金曜 : 脳脊髄液漏出症外来

